

成果の説明書

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
1.1. 研究成果	
<p>日本学術振興会・科学研究費・基盤研究 (C)「東南アジア地域におけるデザインのローカライズ研究—嗜好の相違と日系企業の対応」に関しては、最終年度を終えた。今年度中に公表した成果は、以下の3点である。</p>	
<p><u>Kurokawa., M.</u> (2019) “Differentials in consumer’ s preference among 5 nations in Southeast Asia”, The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS-11), Leiden, Netherland</p>	
<p><u>Kurokawa., M.</u> (2019) “Human Resource Development for Creative Industry; Implication from “Cool Japan” and “Visit Japan” program”, Society of Open Innovation: Technology, Market, and Complexity (SOItmC) 2019 Conference, Nagoya, Japan</p>	
<p><u>Kurokawa., M.</u> (2019) “Dissemination and Training of Value Engineering Through “ORIGAMI Works””, The 15th Conference of IFEAMA, Kyoto, Japan</p>	
<p>本研究では、ローカライズの根拠となる国レベルの嗜好が明確であることを説明し、今後も継続する計画であるローカライズ研究の根拠を確立できた。また、前フェーズでも研究課題としていたクリエイティブ産業振興に関する研究にも取り組むことができた。</p>	
<p>また、新潟県立大学・渡邊教授らと日本学術振興会・科学研究費・基盤研究 (B)「アグリビジネス能力向上によるアフリカ農村部の包摂的開発可能性の研究」を今年度より3カ年の計画で開始した。これは、2016年度から実施してきたガーナ国での基礎調査が案件組成につながったものである。第1回目の現地調査では、農村工業化に関係する政策担当者およびアグリビジネスに取り組む起業家へのヒアリングを推進した。</p>	
1.2. 社会貢献	
<p>昨年度に引き続き、ミャンマーをフィールドとした無煙クッキングストーブの企画・開発を推進した。引き続き、山崎製作所の支援を受けながら、さらにアップグレードしたコンロをミャンマーのプロジェクトサイトに投入し、データ収集を進めた。</p>	
<p>その結果、薪の含水率に対処できるようさらに設計変更を重ねれば、他の村落でも展開していける可能性を得ると同時に、現地でも課題となっているもみ殻の処理と併せたビジネスモデル提案を現地 NGO から受けるなど進展があった。もみ殻処理との組み合わせは、昨年度に UNIDO でヒアリングした内容にも合致するもので、アフリカでの研究活動にも結びつけていける可能性がある。</p>	
1.3. 教育活動	
<p>研究室生に対しては、通常の演習に加え、上記の無煙クッキングストーブプロジェクトなどへの参画を通じた商品企画・開発、フィールドワークの能力構築支援を実践した。</p>	

また商品企画能力の向上に関しては、生ゴミの水切り器の企画・設計を課題として、コンセプトメイクからコールドモックの製作までに取り組むための教材を開発した。その他、引き続き VE 能力を高める教材を改善し、演習などで採用した。

2 その他の事項

今年度は、学内委員として国際交流委員を務めた。

3 次年度以降の計画・抱負

研究室としては、無煙クッキングストーブのプロジェクトにおいてビジネスモデル段階の実証実験に至るよう計画を推進したい。また、他国・他製品での BOP 商品企画プロジェクトの推進にも注力していきたい。商品企画と VE の教育プログラムは、改善を経て定着しつつあるため、課題量を前後期各 2 つ程度とし、学生が商品企画者として十分な経験を積めるようにしたい。

ガーナをフィールドとしたアフリカ研究においては、具体的な研究成果に至るようにしたい。